

ぐるりのこと

梨木香歩著 (新潮社 2004.12)

もっと深く、ひたひたと考えたい。

真っ白なフランス装にシンプルな黒いタイトルの文字。発売当初、帯には上の一文と共に、添えられるようにして「静かに、丁寧に、世界と心かよわせるエッセイ」と書かれていた。著者は児童文学でお馴染みの梨木香歩氏。新潮文庫WEB読者アンケートで「西の魔女が死んだ」が一位になったことや、2005年本屋大賞で「家守綺譚」が三位に選ばれたことは、記憶に新しい。

何が読者を惹きつけてやまないのだろうか。私が梨木氏の作品と初めて出会ったのは、高校の図書室でのこと。新着図書コーナーの片隅にひっそりと置かれていた一冊の文庫本を偶然手に取り、それを一気に読み終えた後、私が貪るようにして梨木氏の作品を読み漁ったことは、一度でも梨木氏の作品に触れたことのある人ならば理解していただけるものと思う。舞台となる時代や場所がいつどこであれ、少しだけ異界のような雰囲気をかもし出し、しかしそれが身近に感じられて、



最後のページをめくる頃には何故か心がじわりと温くなる——そんな共通した世界が、どの作品にも溢れている。一体どこからこのような作品が生まれるのだろう。その答が、このエッセイから少なからず読み取ることが出来ると思う。

私たちの生活は、それが日常であれ非日常であれ、いつも何か潜んでいる、何かを潜めている。心躍るような出来事ではなくとも、小さな喜びや悲しみが、それらを深く自分の内に沈めて、一步一步確かめながら考えてゆく著者。イギリスのセブンシスターズの断崖でドーバー海峡の初夏の風に吹かれながら友人と交わした会話、トルコのモスクでのヘジャブを被った女性との出会い、イラク戦争の衝撃、等々。向こう側とこちら側、境界を行き来して、著者の思いの全ては最後の一文に集約されている。「物語を語りたい。そこに人が存在する、その大地の由来を。」

エッセイは小説よりも入りやすいと言う。だからこそ、梨木氏の作品を読んだ経験のある方にはもちろんのこと、一度も読んだことのない方にも是非お勧めしたい。

(文化学部日本語日本文学学科4年 星山有希)

■ 自 著 紹 介 ■

『和漢朗詠集』とその受容 [研究叢書344]



田中幹子著
和泉書院
2006.1

『和漢朗詠集』は、王朝期の文化指導者藤原公任によって、中国漢詩句・日本漢詩句・和歌を立春・鶯等、約125項目に渡り、選び出し構成したものである。

『和漢朗詠集』は、それまで異なる世界で受容されていた和歌と漢詩を一つにまとめた画期的なものであった。また、所収詩歌が、筆記・説話の文飾、院政期以降の和歌の本説として用いられたことは著名である。

しかし、文学史に与えた重要性は認められながら、従来の『和漢朗詠集』研究は、典拠としての指摘にとどまることが主であった。小書は『和漢朗詠集』を一つの作品として研究し、その世界観を読み解くことを主眼にしたものである。

公任は、『古今集』以来の美意識を基軸としながらも、それまで季の歌材とされなかった鶯園を春項目に設けたり、院政期に大きな影響を与えた秋の夕の美を晩秋という項目でいち早く実現する等、三代集の規範を超えた革新的な世界を提案していた。

また、霞のように和歌と漢詩で指す対象が違うものや、橘のように日中で詠む主眼が違うもの等を詩歌の選択や配列・構成等によって融合させる工夫をしていた。

これら革新的な試みは、公任が博学者であると同時に文化的指導者であるからこそ、受け入れられ、後世の文学に大きな影響を与えたのである。

武と舞の根源を探る [スポーツ学選書18]



澁元誠樹著
養文社
2006.3

昨年嫡子を賜った。二つとない大切な存在であることから「むそう」と名づけた。意図したことではないが、よく武術家の家系らしい名ですねと言われる。天下無双の「むそう」であるが、漢字は「舞社」と当てた。「武社」としなかったのは訳がある。拙著『武と舞の根源を探る』をひもといていただければ、そこにその発想を見出していただければ。私にその発想を見出していただければ。

私の生家は、宮本武蔵で有名な作州・大原にある。彼の地は武術の達人が多く出ることから知られる。父を空手や古武術の師範にもち、幼少の頃から稽古に明け暮れて育った。

武のわざは円熟味を増すほどしなやかで美しい。優美なわざを体で表現しうるまでの稽古は永い年月を経た賜物である。この私の出生に深く関わってきた武術の根源を探り、このわざを言葉で表現することに挑戦し格闘したものが本著である。

「泣いてばかりいたらわからないからちゃんと話してごらん」と言うこともあるが、言葉にならないから泣いているのであり、怒っているものだ。言葉にするより、実感できる世界がある。武術もしかり。私の言葉の獲得はまだまだ続きそうである。舞社と勝負だ。